

ヴィクトリア・アンド・アルバート・ミュージアムの 収蔵品における芸術文化政策

国立芸術デザイン博物館における英国の装飾芸術文化政策（2）

Art Management Policies on Collections of the Victoria and Albert Museum :
A Study Series on the National Museum of Art and Design in the U.K. Part 2

新井 竜 治

Ryuji ARAI

要約

ロンドンのヴィクトリア・アンド・アルバート・ミュージアム（Victoria and Albert Museum：以下 V&A Museum と表記）は、装飾芸術とデザインに関する世界的に重要な博物館であり、多くの国々に模倣された歴史的モデルである。そして、創建から 150 年以上経た現在も、新たな装飾芸術とデザインの博物館を目指して変革の途上にある先進的な事例である。さらに、ビジネス活動を行う V&A Enterprises という株式会社が付属していて、学芸面と商業面を併せ持った事例でもある。この V&A Museum には、「コンテンポラリーな（同時代の）デザイナーおよび消費者の創造性（クリエイティビティ）を刺激（触発）することが、クリエイティブ・デザイン産業の振興に繋がる」という考え方が脈々と息づいている。この一連の研究では、V&A Museum の設置・発展過程、収蔵品、常設展示、企画展覧会、出版物、調査研究体制、外部機関との関係という「学芸面」と、V&A の商業活動、V&A Museum の資金調達活動といった「経営面」とにおける芸術文化政策の特徴を調査研究した。そして第二部である本稿では、V&A Museum の収蔵品に着目し、収蔵品部門の変遷、収蔵品の種類、収蔵品の概要と収集計画の方針にみられる芸術文化政策の特質を明らかにした。

キーワード：ヴィクトリア・アンド・アルバート・ミュージアム、装飾芸術、デザイン、
クリエイティブ・デザイン産業、国立芸術デザイン博物館、芸術文化政策

目次

I はじめに

II V&A Museum の収蔵品

- 1 収蔵品部門の組織の変遷
- 2 収蔵品の種類
- 3 収蔵品の概要と収集計画の方針

III おわりに

注

引用・参考文献

I はじめに

英国においては、社会における様々な分野で装飾芸術やデザインに対する保護や擁護が盛んに行われているという印象を強く受ける。本稿は、装飾芸術とデザインの博物館として世界的に最も重要なロンドンのヴィクトリア・アンド・アルバート・ミュージアムにおける芸術文化政策に関する一連の研究の第二部である。この一連の研究の主たる設問は、「ヴィクトリア・アンド・アルバート・ミュージアムにおける、装飾芸術とデザインに対する英国の芸術文化政策には、どのような特質が見られるか」というものであり、本研究全体の目的はそれを明らかにすることである。そして第二部では、ヴィクトリア・アンド・アルバート・ミュージアム（以下 V&A Museum と表記する）の収蔵品に着目し、収蔵品部門の変遷、収蔵品の種類、収蔵品の概要と収集計画の方針にみられる芸術文化政策の特質を明らかにすることを目的とする。

II V&A Museum の収蔵品

1 収蔵品部門の組織の変遷

どのような種類の博物館においても、学芸活動として最初に取り上げるべき事項は収蔵品であろう。リュック・ブノワが『博物館学への招待』の第二章「コレクションから博物館へ」で論じているように、古代、中世、16～18世紀、19世紀いずれの時代にあっても、為政者・王侯貴族・国家自体によって所有されていた収蔵品が基礎となって博物館が形成されたことは間違いない（リュック・ブノワ 2002：pp.19-35）。

V&A Museum の収蔵品の基礎は、英国政府の官立デザイン学校に付属した教材資料展示室時代に始まる。そして 1851 年にハイド・パークで開催されたロンドン万国博覧会に出品された展示品の一部が、1852 年マルボロー・ハウスに設置された製品博物館に収蔵

された。これが初期の収蔵品の核となった。1857年には博物館がその収蔵品とともにサウス・ケンジントン地区に移設され、名称もサウス・ケンジントン博物館となった。1899年には現在見ることができる博物館正面玄関の増築部分の定礎式が行われ、ヴィクトリア・アンド・アルバート・ミュージアムに改称された。そしてこの新しい建物が開館した1909年以降20世紀の終わりまで、V&A Museum本館の収蔵品部門は長らく以下の小部門に分かれて、独自に収蔵品を拡充させていった。すなわち、極東部門、インド・東南アジア部門、家具・木工部門、繊維・衣装部門、彫像部門¹、金属細工・銀細工・宝飾品部門、陶磁器・ガラス器部門、版画・素描・絵画部門、国立芸術図書館であった。この分類はアジア関連の部門を除き、製作材料の種類によるものであった² (*V&A Departmental Research 1997-1999*)。ところが2001年暮れにこれら9つの部門が以下の通り、1つのアジア部門と3つのヨーロッパ部門に統合された。すなわち、アジア部門、家具・繊維・ファッション部門、彫像・金属細工・陶磁器・ガラス器部門、文書画像部門である (*V&A Collections 2004* : p.5)。尚、これらはV&A Museum本館における収蔵品部門の分類だが、組織上はこの他にV&A Museumアーカイヴス、ベスナル・グリーン子供博物館、演劇博物館：国立舞台芸術博物館にそれぞれ収蔵品部署が存在している。収蔵品部門の分類の変化と新部署の分類を表1に示す。

この統合において特筆すべき点は、第一に収蔵品を大きくヨーロッパとアジアに分けたことである。第二にアジア部門において、以前から存在していた極東部門とインド・東南アジア部門の2つを統合したばかりではなく、新たに中東・イスラム (*Middle East Asia & Islam*) に関する部署を設けたことである。それまでV&A Museumには中東の装飾芸術品の収蔵品はあったが、専門の学芸員がいなかった。そこで新たに4名の専門家を雇用した (アジア部門副部門長アナ・ジャクソン女史とのインタビュー、2005年9月7日)。そして2005年時点で、「将来計画」の一環としてイスラム・ギャラリーが改装されつつあった。尚この改装期間中は常設展示されている作品をどこか別の場所に動かして保管しておく必要があった。実はこのイスラム美術の収蔵品はこの期間、日本の世田谷美術館に運ばれてきて巡回企画展覧会として開催された (世田谷美術館ホームページ)。第三に特筆すべき点は、文書画像部門であろう。この部門には、版画・印刷・絵画などの収蔵品および国立芸術図書館の収蔵品が統合された。尚、20世紀の英国デザインに焦点を当てた芸術・デザイン・アーカイヴ (*The Archive of Art & Design* : 略記する場合はAADと表記) はV&A Museumアーカイヴス部門の中にあるが、この文書画像部門と緊密な連携を保っている。したがってヨーロッパ部門の収蔵品は、2次元的なものはすべて文書画像部門に分類された。そして3次元的なものは、家具・繊維・ファッションという室内装飾すなわちインテリアを構成する比較的大きな物と、それ以外の物の2つに分類された。これが第四の点である。そして第五の点として、同時代の (コンテンポラリーな) 物を収

集する目的で1999年に(旧)版画・素描・絵画部門に設置されたコンテンポラリー部署は、引き続き文書画像部門の中に置かれている。このコンテンポラリー部署は、「当代の芸術デザイン産業の振興を促進する」というV&A Museum設立以来の一貫した方針を実現するための重要な部署である。

表1：V&A Museumにおける収藏品部門の分類の変化と新部署の分類(新井竜治作成)

	2001年までの収藏品部門	2001年暮れ以降の収藏品部門	新部署
アジア	インド・東南アジア部門	アジア部門 (中東・イスラム部署を新設)	南・東南アジア・ヒマラヤ
	極東部門		極東
	***		中東・イスラム
ヨーロッパ	家具・木工部門	家具・繊維・ファッション部門 【3次元的：インテリア・ファッション】	家具・木工
	繊維・衣装部門		繊維
	彫像部門		ファッション
	金属細工・銀細工・宝飾品部門	彫像・金属細工・陶磁器・ガラス器部門 【3次元的：その他】	彫像
	陶磁器・ガラス器部門		金属細工
	版画・素描・絵画部門	文書画像部門 (コンテンポラリー部署含む) 【2次元的：すべて】	陶磁器・ガラス器
			絵画・素描
写真			
版画・印刷			
国立芸術図書館	書籍		
デザイン			
コンテンポラリー			
国立芸術図書館			
アーカイヴス	V&A Museum アーカイヴス	V&A Museum アーカイヴス	芸術・デザイン・アーカイヴ
			ビクトリクス・ポッター・コレクション
			V&A アーカイヴ
子供	ベスナル・グリーン子供博物館	ベスナル・グリーン子供博物館	ベスナル・グリーン子供博物館
演劇	演劇博物館：国立舞台芸術博物館	演劇博物館：国立舞台芸術博物館	演劇博物館：国立舞台芸術博物館

ところで、この部門統合は、V&A Museumの収藏品部門に働く学芸員には何の相談もなく予告すらなく実施された(家具・繊維・ファッション部門学芸員、ジェームス・ヨルク博士とのインタビュー、2005年9月6日)。またこの統合の理由は、収藏品部門にあった9つの小部門長のリストラが主な目的ではないかという意見もある(前掲インタビュー)。しかし論者は、「将来計画³⁾」に則って2001年暮れにオープンして大成功を収めた「新・ブリティッシュ・ギャラリー」に見られるように、今後の常設展示ギャラリーの展示管理においては、すべての収藏品部門の協力を得ることが必要になったためではないかと考える。なぜならV&A Museumはその設立当初から今日まで一貫して次のような運

営目的を掲げてきたからだ。すなわち、「すべての人が収蔵品〔である装飾芸術品とデザイン〕を楽しむことを可能にすること、及び、それら〔の作品〕を生み出した文化〔背景〕を探ることを可能にすること、そしてコンテンポラリーな〔同時代の〕デザインを制作する人々を触発すること」（V&A Plan 2004：p.5）である。特に二番目の点である「文化背景を探ることを可能にする」ためには、例えば家具だけの時系列的な常設展示では不十分であることは明らかである。家具、繊維、ファッション、陶磁器、ガラス器、金属細工、図画、図案、版画、書籍、その他のアーカイブスを渾然一体として用いて当時の文化背景を表出することが必要である。このため収蔵品部門の中の小部門は統合される必要があったのではないかと論者は考える。そして「将来計画」とは、この使命を 21 世紀も継続して行うための改革である。

2 収蔵品の種類

2001 年暮れに収蔵品部門は大きく 4 つに統合されることになったが、収蔵品の種類は過去 150 年間の収集の結果であり、これを急激に変化させることは不可能である。V&A Museum の収蔵品の種類は以下の通りである。すなわち、建築図面、写真撮影の美、英国の水彩画と素描、陶磁器、商業グラフィックス、ファッション、家具・木工、ガラス器、宝飾品、金属細工、国立芸術図書館蔵書、パステル画、細密肖像画、彫像（古典期以降～1914 年）、繊維、ベスナル・グリーン子供博物館および演劇博物館：国立舞台芸術博物館の収蔵品である（V&A Collections 2003：p.3）。ここで大切な点は、上記の種類に分類される物を、英国政府は収集して収蔵すべき国家的価値があるものと見なしているという点である。勿論 V&A Museum の収蔵品の中には、非常に重要なために単体で国家財産としての価値が認められる物が存在する。しかし 500 万点に上る収蔵品のすべては、それ程有名でないものも含めて、国立博物館である V&A Museum に収蔵された時点で英国政府がその価値を認めたことになり、国家的な財産になったと言えよう。

3 収蔵品の概要と収集計画の方針

V&A Museum には『収蔵品収集計画書⁴』（V&A Collections 2004）という内部文書がある。この計画書に基づき V&A Museum の収蔵品の概要と収集計画の方針を概観する。

まず現館長のマーク・ジョーンズが記した序論において着目されるのは、第一に国立の芸術デザイン博物館である V&A Museum は、輸出されてしまうかもしれない重要な国家的遺産を収集して公の収蔵品とする役目を担っているという点である。第二は歴史的な物の収蔵に当たっては証拠資料が揃っていることが強調されている点である。第三は 20 世紀と 21 世紀のコンテンポラリーな物を収集することに焦点が当てられていることである。これは V&A Museum が、「技術やデザイン実践の変化に対応する」という公約と、「デザ

イン革新の舞台である社会背景の変化を享受する」という公約とを再確認するためである。第四は新たな物に対する調査研究成果を伝統的方法と電子メディアを使用した方法をもって公表しなければならないという点であろう。第五として V&A Museum は館内の常設展示、図書館、研究室、参考資料施設、短期・長期貸出、外部展覧会を通して、英国内および国際的に、文字通りすべての収蔵品を一般公衆が享受できるようにすることに献身しているという点である。この一環として収蔵品検索システム構築があり、2007年までに約5万点の収蔵品の画像と説明文を掲載する予定である。第六は V&A Museum は国際博物館会議 (The International Council for Museums : ICOM) と英国博物館協会 (Museums Association of the United Kingdom) の会員であるので、その規約を遵守している点である。例えば不法に輸出された材料などの収蔵の禁止が挙げられる。最後に、収蔵品の収集の方法は、寄贈、遺贈、納税代替、交換、制作依頼など色々あるが、最も多いのは購入であるようだ。そこで収蔵品の体系を整えるために最も重要な課題は、個人・納税代替希望者・寄付団体から資金調達をする能力であると述べられている。最近では、ブリティッシュ・ギャラリーの改装に際して、経済的に厳しい状況下にも関わらず多額の寄付があったことが述べられている。V&A フレンズ、国家芸術品基金 (National Art Collections Fund)、ナショナル・ヘリテージ記念基金 (National Heritage Memorial Fund)、遺産宝くじ基金 (Heritage Lottery Fund) などの名前が挙げられていることが興味深い (前掲書 : pp.6-7)。

次に以下において、V&A Museum 本館内に置かれている4つの収蔵品部門と別棟にある V&A Museum アーカイヴスに絞り、その収蔵品の概要と収集計画の方針を部門毎に記述する⁵⁾。

1) アジア部門

大英博物館、大英図書館、V&A Museum などによって、ロンドンはアジア地域以外でのアジア芸術と考古学の最重要な中心地となっている。特に V&A Museum はアジアの装飾芸術とデザインの歴史に焦点を当て、鍵となる意味深長な物を収集し収蔵している。アジアには世界人口の約60%が生活しているので、その文化には奥行きのあるものがある。これらの博物館は認識している (前掲書 : p.1&9)。歴史を振り返れば、洋の東西はお互いに影響を与え合ったり受け合ったりしてきた。そして昨今の中国の経済的な発展と台頭に対応するように、2005年から V&A Museum のホームページに中国語のページが出現した。

また英国社会は多文化主義の立場をとっているので、アジアからの多くの移民の子孫が、自分たちの先祖の出身国における装飾芸術文化の背景を知ることができるようにしたい (前掲書 : p.9) という文化政策的な明らかな意図が示されている。

(1) 南・東南アジア この部署の収蔵品は、歴史的には紀元前2000年のインダス文明

から現在まで、地理的にはアフガニスタンからインドネシアに至る地域でありヒマラヤ地域を含んでいる。しかし主要地域はインド亜大陸である。収蔵品の多くは 19 世紀に収集された同時代の芸術的工芸品であった。それらは繊維、家庭用品、道具、民族絵画などの日常的なものから、ムガル王国の細密画や仏教彫刻などの宮廷美術品までといった幅の広いものである。この他の収蔵品は翡翠玉、水晶石、ヨーロッパと東南アジア市場のために織られたインド繊維、ブロンズ像、ヨーロッパ市場に輸出されたインド家具、パンジャブ宮廷絵画、19 世紀のインドの写真、宝石、陶磁器、ガラス、漆工芸、バスケット、木工品などである。またインドとパキスタンのコンテンポラリーな著名芸術家の作品も含まれている（前掲書：p.30）。大英帝国の歴史を紐解けば、17 世紀以降の英国社会には東インド会社⁶などを通して多くのアジアの産物が流入してきたであろうことは容易に想像できる。そして 19 世紀初頭（1801 年）に東インド会社博物館（*Museum of the East India Company*）が設立された。元々この博物館は 18 世紀のアジアの文物を学ぶために設立された。19 世紀後半になるとインド博物館（*India Museum*）と改称され、新たに設置されたインド事務所に移された。その収蔵品は主に国際博覧会で収集された美術品、工業製品、商用製品で構成されていた。1870 年代までにその収蔵品は、インドの影響を受けたヒマラヤ地方や英国植民地などを含む「大インド地方」（*Great India*）全体から収集された同時代の装飾芸術品にまで拡大した。ところが 1880 年にこのインド博物館は解散となり、その装飾芸術品と歴史的収蔵品はサウス・ケンジントン地区に運ばれてきた。実際、サウス・ケンジントン博物館でも 19 世紀中頃からインドの装飾芸術品を独自に収集してきた⁷。そしてこの時点で、これら両者の収蔵品は統合されることになった。しかし 1909 年に収蔵品とその管理部門が材料別に分類されるようになっても、これらアジアの収蔵品はエックスヒビション・ロード（*Exhibition Road*）を挟んで *V&A Museum* 本館と反対側にあった別の建物に分離して収蔵されていた。そして引き続きインド博物館として知られていた。その後 1950 年代中頃にはこの新しいインド博物館は取り壊され、その収蔵品は *V&A Museum* 本館に移設された。そして 1970 年に収蔵品部門下に東アジア部門が開設された。*V&A Museum* 本館でのインド・東南アジアの常設展示は大幅に減少したが、この地域の歴史のおよびコンテンポラリーな彫像、絵画、装飾芸術品、デザインの収集活動は続けられている。このような歴史背景から、収蔵品部門は現在も大きくアジアとヨーロッパに分割されている。そしてアジア部門は今でも *V&A Museum* において独特の存在感を示している（アジア部門副部門長アナ・ジャクソン女史とのインタビュー 2005 年 9 月 7 日、*V&A Collections 2004*：pp.10-11）。

(2) **極東アジア** 極東アジア諸国、すなわち中国、朝鮮半島、日本の装飾芸術品については、年代的に 5000 年以上前のものから現在までの物が収蔵されている。この部署の前身は、1970 年に東アジア部門が *V&A Museum* 本館に開設されたのと同時に、極東部

門として開設されたものである。その内容は、極東アジアの家具、繊維、陶磁器、輸出品、日本版画、刀、印籠、漆工芸であり、西欧諸国内で最も品質の良いものである。また同地域の金属細工、彫刻、20世紀と21世紀の手工芸品も収蔵されている（V&A Collections 2003：p.30）。現在の新しいアジア部門の収集計画方針においては、第一に極東アジア諸国にその焦点が置かれている。日本については、1980年以前の衣装と工房作品（studio crafts）の収集に力を入れようとしている。朝鮮半島については、伝統的様式に基づくコンテンポラリーな朝鮮半島における繊維、衣装、陶磁器、漆工、金属細工、紙などの工芸品の収集に集中しようとしている。中国については、基本的に20世紀・21世紀の中国のデザインを表出することを目標にしている。その実現に向けた方策は、新たな物の収集だけに頼らず、すでに収蔵されている陶磁器、漆工、繊維、金属細工、衣装、文化大革命時の物、1940年以降現代までの記録資料が残されているメーカーによって製造された物を使い、極東アジアの既存収蔵品体系を発展させることである（V&A Collections 2004：pp.1-2）。

(3) 中東・イスラム文化圏 この部署には、中東・北アフリカ地域の初期イスラム文化から20世紀初頭までの物が収蔵されている。その内容は、金属細工、陶磁器、建築的木工、繊維である。地域的には特にイラン、トルコ、エジプト、イラク、シリアと他の北アフリカ諸国である。イランの陶磁器とタイルは国際的に最も重要で体系的な収蔵品である。マムルカ木彫はエジプト国外では最良のものである。後期ペルシャの漆工芸品、器・宝飾品・甲冑を含む金属細工は世界的に最も重要である。古代の絹織物、刺繍、イランのアルダビル廟の巨大な16世紀のカーペットなどの繊維収蔵品も重要である。その他少量ではあるが、象牙、水晶石、石、書籍、写本、書などがある（V&A Collections 2003：p.30）。そして現在の新しいアジア部門の収集計画方針においては、第二の焦点として中東アジア地域、すなわち中東諸国、イスラム圏中央アフリカ、北アフリカ、イスラム時代のスペインが、その収集対象地域として挙げられている（V&A Collections 2004：p.2）。

2) 家具・繊維・ファッション部門

(1) 家具・木工 家具・木工部署の収蔵品は大多数が家具であるが、インテリアや建築的な木工芸、楽器、革細工、木製家庭用品、パピエ・マーシュエ、時計⁸なども含まれている。またこの部署の収蔵品の特徴として、完全な室内装飾が移築されたものが数点ある。この部署の収蔵品の年代は中世から現在までであり、その地域は英国ブリテン島、ヨーロッパ、アメリカである。主な収蔵品は、1700年から1900年にかけての英国家具⁹、20世紀の国際的家具、18世紀ドイツ家具、15世紀イタリア家具などである。家具・木工部署の学芸員は、英国とヨーロッパ大陸の中世から19世紀までの家具、20世紀の国際的な家具、コンテンポラリーな家具の専門家である。(旧)家具・木工部門が管理していたイスラム文化の収蔵品は新しいアジア部門の中東・イスラム部署に移管されつつある

(V&A Collections 2003 : p.31 および V&A Collections 2004 : p.2)。

初期の収蔵品は、サマセット・ハウスに置かれていた官立デザイン学校において、木工技術と職人技法の見本として 1840 年代に収蔵されたものであった。最も初期の収蔵品は 1844 年のパリ博覧会で購入された同時代の仏国の幾何学柄寄木張り彫刻であった。1848 年以降は歴史的な家具も収蔵されていったが、収蔵の際の強調点は、同時代の家具職人教育のためになる技術的見本性にあった。また初期の収集はヨーロッパ、アジア問わずに行われたので、アジアの漆工芸などはしばらく(旧)木工部門の管理下にあった。そして 1851 年のロンドン万国博覧会以降、英国およびヨーロッパ大陸の同時代の家具収集が盛んになっていった。19 世紀の収集は有力な個人所蔵品の購入や遺贈を中心に行われた。このような有力な個人所蔵品の収集は 20 世紀も引き続き行われた。1880 年以降、中流階級が 19 世紀よりも前に制作されたアンティーク家具の収集に興味を持ち始めたのと平行して、V&A Museum でも 16 世紀から 18 世紀にかけての英国家具に、その収集の中心を移していった (V&A Collections 2004 : pp.17-18)。これは、一般公衆の趣味の変化が博物館の収集方針に大きな影響力を及ぼすという事例である。特にこの背景には、1890 年頃から 1910 年頃に見られたロマンティックな愛国主義と懐古主義の影響があったと考えられている。それを表す事例として、1895 年に設立されたナショナル・トラスト (The National Trust for Places of Historic Interest or Natural Beauty)、1897 年に創刊された『カントリー・ライフ』(Country Life)¹⁰、1896 年にロンドン家具産業の中心地であったイースト・ロンドン地区のベスナル・グリーン博物館¹¹で開催された英国家具展覧会などが挙げられる (WILK 1996 : pp.14-15)。また、この 1890 年から 1930 年にかけては、多くの様式室内 (Period Rooms) が収蔵された。これ以降は 1974 年収蔵のフランク・ロイド・ライトによるカウフマン・オフィス (Kaufmann Office) 以外の完全な様式室内の収蔵は行われていない (V&A Collections 2004 : pp.17-18)。

また 19 世紀の V&A Museum は、国際博覧会に出品された家具を収集するという形で同時代性を重視していた。しかし 1900 年パリ万国博覧会に出品されたアール・ヌーヴォー様式の家具を収蔵したことが非常に辛辣な批判を受けたことから、1909 年以降 1960 年代まで同時代の家具は系統立って収集されて来なかった。唯一、巡回部門 (Circulation Department)¹²だけが 1920 年代・30 年代の家具を、勇気を持って収集したのであった。(前掲書 : pp.17-18)。実は、このとき批判的であった V&A Museum のアール・ヌーヴォー収蔵品を含む、各地に残る作品で構成されたアール・ヌーヴォー展が 2000 年に開催された。この企画展覧会はロンドンを皮切りに、ニューヨークと東京にも巡回した。ロンドンにおいても、ニューヨークと東京においても、非常に多くの来場者を迎えた。当初の収蔵から数えて何と 1 世紀後にその収蔵の判断をした人々の名誉が回復されたのであった。現在の V&A Museum は、「同時代のデザイナーを触発するために、

同時代の作品を収蔵する」という設立当初の立場に完全に復帰している。すなわち現在では、コンテンポラリーな家具の収集・収蔵は優先度の高い事項に戻っている。しかしその立場に立った収集活動は、時には誤解されたり、評価されなかったりすることもある。それにも関わらず、当時の学芸員が真摯に調査研究した結果として収蔵された物が、1世紀を経て世界的に評価が定まり、その収集活動の正しさがきちんと認められた。これはそのような事例である。

英国内にはカントリーハウスなどの歴史的な建築物、地域博物館、教会、公共建築の中に重要な家具が収蔵されている。V&A Museum は常にこれらの機関が家具・木工作品を収蔵するように奨励してきた。そしてこの伝統は今日も続いている。家具・木工部署の学芸員は現在でも、地方の博物館は元より、イングリッシュ・ヘリテージやナショナル・トラストといった組織と深い連携を保っている。地域博物館のうち、ウォーレス・コレクション (Wallace Collection)、 temple・ニューサム・ハウス (Temple Newsam House)、レディー・リーバー・アート・ギャラリー (Lady Lever Art Gallery, National Museum Liverpool)、ボウズ博物館 (Bowes Museum) などの収蔵品はとても重要なものである。しかしそれらは英国家具が中心である。またコッツウォルド地方の家具を収蔵するチェルトナム・アート・ギャラリー・博物館 (Cheltenham Art Gallery and Museum) や、18・19世紀のギロウ工房の家具を収蔵するランカスターのジャッジズ・ロッキングス (Judges' Lodgings) などは、地域特有の家具だけを収蔵している。国立博物館である V&A Museum は、国家的な財産となり得る英国内および国外の高品質で主要な家具を収蔵する使命があると自己認識している (前掲書：p.19)。この点は国立であるが故の独特の特質である。

(2) 繊維 繊維収蔵品の年代は紀元3世紀から現在までである。地理的には広範囲であるが、特に西ヨーロッパのものが多し。収蔵品は、織物、捺染、刺繍、編物、壁掛、カーペットなど、繊維に関する技術の殆どすべてを表現できるようになっている。収蔵品は技術、原産国、製造年月によって分類されている。特に収蔵品の密度が濃い地域は近東アジアの絹、ヨーロッパの壁掛、中世英国教会の刺繍などである。このように V&A Museum の繊維収蔵品は規模と量において世界最大のものである (V&A Collections 2003：p.31)。

(3) 衣装 V&A Museum は早い段階から繊維製品と衣装を収集してきた。しかし長い間、衣類の収蔵基準はそれが意義深い繊維で作られているかどうかであった。つまり衣装は装飾芸術品の階級の中では下層階級であった。しかし現在では装飾芸術品としての衣装の重要性は十分に認識され、収蔵品は国際的重要性を持つまでになった。それらは17世紀から今日までの流行の衣装であり、ヨーロッパのファッションの主要地域からもたらされた発展的で影響力のあるものである (前掲書：p.31)。具体的には、主に仏国と英国の

ファッションナブルな衣装と服飾品であり、男性物・女性物どちらも収蔵されている（V&A Collections 2004：p.2）。今後の収集の焦点は 18 世紀と 19 世紀の高品質なファッションを追加することに加えて、コンテンポラリーな素材の収集に絞られている。特にファッション用の繊維素材の技術的進展とファッション産業での使用例に絞られている（前掲書：p.2）。

(4) **インテリアデザイン** 1960 年代から 80 年代は、(旧) 家具・木工部門¹³ および(旧) 繊維部門の学芸員は、家具調度品と室内装飾・インテリアデザインに関する研究に集中していた。従って収蔵品の選択は、初期の学問体系の特徴であった狭い鑑識眼よりも、このようなインテリア全体に対する興味から影響を受けるようになった。また収蔵される家具や繊維は、高貴なデザインであることに加え、そのものの由来や歴史も大切になっていった。現在では歴史的なインテリアを記録するためにビデオなどの録画機器を用いるという新しい収蔵の仕方を検討している（V&A Collections 2004：p.2 & pp.22-23）。これはファッション・イン・モーショウの模様を動画記録として収蔵・保存することにも応用できる。

3) 彫像・金属細工・陶磁器・ガラス器部門

(1) **彫像** 彫像部署の収蔵品は、古典様式¹⁴ 以降のヨーロッパにおける彫像を、世界で一番包括的に集めたものである（V&A Collections 2004：p.2）。収蔵品にはイタリアと英国の彫像やレリーフといった大きなサイズの造形作品が含まれている。その他、多色彩の木彫像、ツゲ材製小像、彫刻家のためのテラコッタ製モデル像、青銅製小像、書籍カバーに装飾のために着ける象牙の銘板なども含まれている（V&A Collections 2003：p.31）。古典様式の彫像は大英博物館の責任¹⁵ であるので、V&A Museum には 4 世紀以降の彫像が収蔵されている。またテート美術館との正式協定によって、V&A Museum には 1914 年以降に制作された大きなサイズの彫像は収蔵されていない。但しテート美術館が収蔵していない象牙、青銅、勲章などの小型の彫刻的工芸品は引き続き収集している（前掲書：p.31）。

(2) **金属細工・銀細工・宝飾品** この部署の収蔵品は青銅器時代から今日までの装飾的な金属細工、銀細工、宝飾品で構成されている。そして国家財産である英国の銀細工も含まれていて、新たに改装された銀細工ギャラリーに展示されている。また包括的で傑出した宝飾品、鉄器、ヨーロッパ大陸の銀細工、武器と甲冑、エナメル、真鍮製品、しろめ（Pewter）、世界的に重要な中世の金属細工などがその収蔵品である（V&A Collections 2004：p.2, V&A Collections 2003：pp.31-32）。

(3) **陶磁器・ガラス器** V&A Museum の陶磁器の収蔵品は、全体として規模、品質、種類の豊富さから、世界中で他の追従を許さないものである。この陶磁器収蔵品群は V&A Museum の収蔵品の基礎となるもので、その創設期以来真剣に収集されてきた。そ

して対象は古代エジプトから現在のコンテンポラリーな工房作品や工業デザインの陶磁器までと広範囲にわたっている。陶磁器部署の全収蔵品の中から、たくさんの小グループを抜き出すことができるが、それらはすべて世界的に最高級の品であり、最も代表的な作品群になっている。特に重要な収蔵品群は、中世後期およびルネッサンス期のスペインのラスター彩、イタリアのマヨリカ焼、オランダのデルフト焼、仏国のファイアンス焼、そして英国の陶器と磁器である。次に V&A Museum のガラス器の収蔵品も、ヨーロッパ随一の規模である。特にスタンドグラスについては世界のどこにも類を見ないものである。尚、プラスチックや銅の上にエナメルを被せた製品なども、この部署の管理する収蔵品である (V&A Collections 2004 : p.2, V&A Collections 2003 : p.32)。

4) 文書画像部門

文書画像部門の収蔵品は、主に西欧の絵画、素描、写真、版画、印刷、書籍、デザインである。この部門は主要な参考資料図書室を運営している。そして国立芸術図書館とプリント室を通して、その収蔵品の閲覧を許可している。文書画像部門の収集方針は、主に英国の歴史的なものを継続して収集することと、コンテンポラリーなものを優先するというものである。そしていわゆる「超芸術的デザイン」と「一般大衆文化」の両方を同等に扱っている。また「デジタル媒体」も収蔵している (V&A Collections 2004 : p.3)。

(1) 絵画・素描 この部署の収蔵品は、英国の水彩画・パステル画・肖像細密画の国家的収蔵品、および英国とヨーロッパの油絵で構成されている。これらの絵画収蔵品は、主に 19 世紀の収集家たちから寄贈された一連の作品群から構成されてきた歴史がある。そしてこれはヴィクトリア朝の「絵画収集習慣」に関する深い洞察を提供している (V&A Collections 2003 : p.32)。この点は V&A Museum の大きな活動方針のひとつである「これらの芸術作品を生み出した文化背景の探求を人々に提供する」という目的に適っている。V&A Museum の絵画収蔵品のもう 1 つの特徴は、イーゼルにキャンバスやスケッチ紙を立て架けて描かれた油絵・素描・水彩画を収蔵するだけでなく、装飾の 1 つの技法として絵画を施すという「絵画の応用」にも焦点を当てていることである。例えば、祭壇に描かれた絵画、垂れ幕・横断幕、室内装飾としてのフレスコ画、家具に描かれた絵画装飾、装飾的な破片なども収蔵品を構成している (前掲書 : p.32)。V&A Museum が絵画・素描・版画を積極的に収集してきた背景には、絵画と工芸が並立するという考え方や、芸術とデザインには密接な関係があるという考え方、美術は製造業者を触発させる源であるという考え方があったと、1991 年当時の館長エリザベス・エスティヴ＝コールは述べている (エリザベス・エスティヴ＝コール 1992 : p.6)。具体的な収蔵品の代表例は、テート美術館に次ぐ規模のジョン・コンスタブルの絵画作品群を含む、19 世紀ヴィクトリア朝の英国油絵コレクションである。その他、装飾的な絵画や近東地域の眺望絵画などがある。英国外の油絵作品群もまた英国内では重要な収蔵品である (V&A Collections 2004 :

p.3, V&A Collections 2003 : p.32)。これらの版画・素描・絵画の収蔵品は主にヘンリー・コール・ウィングという V&A Museum 本館の 1 つの建物に収められている。プリント室 (Print Room) もこのヘンリー・コール・ウィングに置かれている。プリント室では収蔵されている水彩画やパステル画などを、芸術家名の目録で捜して閲覧を希望すると、閉架式収蔵庫から出して来てくれるので現物を手にとって拝見することができる。

(2) 写真 V&A Museum は世界で最初に写真の収蔵を始めた博物館である。これはヘンリー・コールが 1856 年にロンドン写真家協会の年次展覧会で約 30 点の写真を購入したことに始まる。また写真家から直接収集したものもある。収蔵品は国際色豊かであり、1839 年から今日に至るまでの写真の歴史全体を概観できるものになっている。1977 年に国立芸術図書館から (旧) 版画・素描・写真・絵画部門にこれらの写真収蔵品が移管された後、19 世紀・20 世紀の比較的古い写真の収蔵品が拡充した。それと同時にコンテンポラリーな写真収集の優先度が増した。また 1977 年には、この写真収蔵品は「写真芸術の国家収蔵品」(National Collection of the Art of the Photography) と呼ばれるようになった。但しこれらの収蔵品には写真撮影のための機材は含まれていない。それらはロンドン国立科学産業博物館 (National Museum of Science and Industry: Science Museum) とブラッドフォードの国立写真・フィルム・テレビ博物館が責任を負っている。V&A Museum はあくまでも撮影された芸術的な写真を収集・収蔵している (V&A Collections 2004 : p.35)。

(3) 版画・印刷 版画・印刷部署は、美術品としての版画および商業製品としての印刷の両方を収蔵している点が特筆される。すなわち様々な印刷技術¹⁶を用いて制作されたあらゆる種類のイメージをその収集対象にしている。年代的にはルネッサンスから今日までの範囲である。収蔵品の具体的な内容は、複製版画、装飾芸術品のデザインの版画・印刷、肖像画、地形図、社会史的内容、宗教的・世俗的象徴物、衣装・ファッション図版、扇子、戯画、トランプ、包装、文具、ポスター、商業グラフィックス、壁紙等である (V&A Collections 2003 : p.33)。尚、大英博物館にはいわゆる巨匠の版画が収蔵されているが、V&A Museum は版画・印刷技術全体の促進を目的とした収集を行っている。そして 19 世紀中葉から終始一貫して同時代の芸術家の版画・印刷作品を収集してきた唯一の国立博物館である (V&A Collections 2004 : p.36)。この点も「同時代のデザイナーを触発する」という V&A Museum の大きな目標に合致した個別の方針である。

(4) 書籍 この部署では彩色された写本からペーパーバックまで、書籍に関するすべての諸相を収集対象にしている。つまり彩色された写本、カリグラフィ、漫画・コミックス、挿絵入りの小説、図版入りの本、良質な印刷、製本術などである。中世および中世後の彩色された写本は 1850 年代から収集され始め、同時に写本の破片も収集されてきた。これらは教育目的でデザインの源泉として用いられてきた。これら完璧な写本や単体の

ページや更に細かな断片は、書籍における装飾芸術とデザインを体系的に示すものとして収集されてきた。紋章入りの製本術に関する収蔵品は英国内随一の内容である。この部署は大英図書館やテート美術館の研究部門と連携している（V&A Collections 2004：p.3 & 36）。

(5) **デザイン** 本来デザインとは、製品のコンセプト設計から実際に消費されるまでの全過程を計画することである。よって文書画像部門の収蔵するデザインに関する資料は、このすべての過程に関係するものである。その資料の概要は、芸術家やデザイナーの個人的な記録、ビジネスの記録、生産・マーケティング・販売促進活動・芸術デザイン研究などに関わった組織の記録などである。具体的には、注文書、往復書簡、帳簿、日記、写真、販売促進物などである。このようなものを通して、デザイナーの仕事の方法やデザイン過程の全体を表出させることを目的として収集されたものである（V&A Collections 2004：pp.2-3 & 34）。またこれらの資料の分野は、彫刻家が描いたデザイン、家具デザイン、陶磁器デザイン、ステンドグラス・デザイン、金属細工デザイン、宝飾品デザイン、繊維デザイン、衣装デザイン、プロダクト・デザイン、工業デザイン、建築デザイン・建築図面などである（V&A Collections 2003：p.32）。この V&A Museum の文書画像部署は、デザイン研究のための一次資料を大量に収蔵する英国内の中心地となっている。デザインの歴史に関する収蔵品の規模は英国内では他に類を見ない。実は 2004 年暮れまでは、英国王立建築家協会（Royal Institute of British Architects：以下 RIBA と表記）が管理していた約 100 万点の建築図面が英国内随一の規模のデザイン関連収蔵品であった。しかしこれが 2004 年暮れに V&A Museum に収蔵されることになり、名実ともに英国随一の規模と内容になった。但し RIBA の建築図面コレクションの所有権はこの後も同協会会員のものである。そして新しく建築ギャラリー（Architecture Gallery）も作られた。元々文書画像部門にも 35000 点の建築デザインと図面の資料があったが、それは RIBA のものとは異なる種類のものであった。V&A Museum と RIBA 以外にデザイン関連の資料を収蔵する英国内の主要な機関としては、美術デザイン資料を収蔵するテート美術館、美術品のデザイン図面を収蔵する大英博物館などがある（V&A Collections 2004：pp.2-3 & 34）。

(6) **コンテンポラリー** 「コンテンポラリー部署」は 1999 年に（旧）版画・素描・絵画部門の中に設けられた比較的新しい部署であり、現在文書画像部門の中に置かれている。これはコンテンポラリーなデザインの収蔵品の多くが、デジタルイメージになっていることによる。この部署が設置された目的は、コンテンポラリーな芸術家の価値を正しく評価できているかどうかを確認するためであり、新しい媒体に対する学芸的な責任を果たすためである。この部署の学芸員はコンテンポラリーな作品の「何を」、「いつ」、「どのように」収集するべきか議論をしている。V&A Museum の上級学芸員は大英博物館と共同

で、現代的でコンテンポラリーな作品の収集方針に関する補足方針を現在定めつつある。また英国内は元より国際的な領域で活動している。そして担当学芸員は、収蔵された作品の管理に必要な専門的な電子情報管理技術を習得している必要がある。なお最近では、黒人芸術家、アジア人芸術家、少数民族出身の芸術家の作品の収蔵が目立っている（V&A Collections 2004：pp.36-37）。ところで、アジア部門、家具・繊維・ファッション部門、彫像・金属細工・陶磁器・ガラス器部門、文書画像部門、子供博物館、演劇博物館のいずれにおいても、その部門に関係するコンテンポラリーな物を収集することができる。それは各部門の収集計画に述べられている通りである。そしてその際の収集方針も、文書画像部門が定めた上記の収集方針に則ったものである。このように、V&A Museum では、すべての部門部署でコンテンポラリーな物の収集・収蔵に非常に力をいれていることが判る。

(7) 国立芸術図書館 V&A Museum 本館の中にある国立芸術図書館（National Art Library：略記の場合は NAL と表記する）は応用美術や装飾芸術に関する世界中で最も偉大な図書館の 1 つである。勿論 NAL は芸術・工芸・デザインのすべての領域を対象としている。この図書館の発端は 1830 年代に遡る。そして 1851 年以降は図書館として設立された。その収集活動は国際的なものである。NAL は V&A Museum によって提起された課題に関する出版物の全体像を示すことを心掛けている。そして NAL のオンライン・カタログには、2003 年末までに 73 万件以上の蔵書目録が掲載された（V&A Collections 2004：P.111）。ところで、収蔵品部門ごとに学芸員のための図書資料スペースがある。その図書は国立芸術図書館から貸し出された図書で成り立っている。貴重な一次資料に値する古書や古い研究者の著作などが置かれている。これは学芸員が日々資料を借りに館内を移動する必要がないようにするためである。例えば論者のように英国家具史を研究している者であれば、先行研究文献や関連資料などは国立芸術図書館からの委託として家具・繊維・ファッション部門室の中央に位置する図書スペースに置かれているので、家具・繊維・ファッション部門の学芸員を訪問すれば資料にも容易にアクセスできることになっている。このように便宜的な方法を用いて時間を有効に用いるという考え方は英国らしい考え方であると思う。この考え方は収蔵品と収蔵品部門が材料別に分類された 1909 年以降に発展した。そして地理的な分類による部門が設置された 1970 年代を経て今日の形になった（前掲書：p.111）。勿論、収蔵品に関する証拠資料については、本館とは別の場所にある V&A Museum アーカイブズがその保管をしているので、予約の上そこに赴かなければならない。それから、演劇博物館には独自の図書館と図書閲覧室が付属している。また、ベスナル・グリーン子供博物館にある子供に関する書籍の収蔵品も増加している（前掲書：p.111）。

5) V&A Museum アーカイヴス (V&A Museum Archives)

V&A Museum アーカイヴスは、芸術・デザイン・アーカイヴ (Archive of Art and Design: 以下 AAD と表記する)、ビアトリックス・ポッター・コレクション (Beatrix Potter Collections)、V&A アーカイヴ (V&A Archive) の3つの部署から成り立っている。これは本館から少し離れた場所にあるブリーズ・ハウス (Blythe House) に置かれている。ここへの出入りはすべて予約制である。学生や研究者がその対象である。最初の入館に際しては身分証の提示と入館記録の作成が必要である。また古文書の保存の観点からコピーは禁止されている。研究目的であれば古文書保管係官の裁量によって写真撮影が認められることがあるが、その場合は著作権侵害をしない旨の書類にサインする必要がある。その写真を出版する場合や商業目的に複製する場合には、V&A Enterprises 内の画像部門 (V&A Images) にその許可を申請しなければならない (V&A-Archives ホームページ)。

(1) 芸術・デザイン・アーカイヴ 芸術・デザイン・アーカイヴは V&A Museum の増加する古文書・記録資料を収蔵するために 1977 年に設立され 1978 年に一般公開された。この部署は芸術デザインの過程に関わる個人・組織・企業の古文書・記録資料、すなわちアーカイヴスを収集し、調査研究のために公開する作業をしている。昨今特に 20・21 世紀の英国デザインに関する記録資料の収集に力点が置かれている。AAD の収蔵品は V&A Museum の収蔵品を反映したもので、次のようなものである。建築・インテリアデザイン、コンテンポラリーな芸術デザイン、ファッションデザイン、繊維デザイン、家具デザイン、陶磁器・ガラス器デザイン、金属細工・銀細工・宝飾品デザイン、ステンドグラス・デザイン、絵画・素描・彫像、グラフィック・デザイン、展覧会デザイン、書籍のイラストなどである。収蔵品の個々の内容は様々、個々の資料数もまちまちである。具体的にはデザイン画、スケッチ、注文書、帳簿、往復書簡、写真資料、販売促進用品などである。その他、広告・包装・グラフィック・デザインのコンテンポラリーな発展過程を記録するチラシやビラも含まれている (V&A-Archive of Art and Design ホームページ)。AAD の建築・インテリアデザインのアーカイヴスのリストには、建築家、インテリアデザイナー、インテリアショップ、壁面装飾家、壁紙デザイナー、石膏細工師の名が見られる。例えば「アイリーン・グレー」、「E・W・ゴドウィン」、家具インテリアショップの「ヒール & サン」、同じく「ハビタ」などの名である (V&A-AAD Subject Guide: Architecture and Interior Design ホームページ)。コンテンポラリーな芸術デザインのアーカイヴスでは、現在活躍中の各種デザイナー、インテリアショップ、クラフト・カウンシルの記録などがある。また「商業中心地トロール網作戦」(High Street Trawl) によって、年に 2 回 6 月と 12 月に何人かの博物館スタッフが商業中心地のビラやチラシを集めたものがある。この活動の目的はコンテンポラリーなグラフィックス、中心的话题、商業中心

地の雰囲気を集めるためである（V&A-AAD Subject Guide: Contemporary Art and Design ホームページ）。ファッションデザインのアーカイブスでは、ファッション・デザイナー、ファッション製造企業、ファッション写真家、ファッション図版・イラスト、服飾品製造業者、ファッション販売促進活動、裁縫や編物の図案、ファッション関係のピラやチラシなどがある（V&A-AAD Subject Guide: Fashion ホームページ）。繊維デザインのアーカイブスでは、テキスタイル・デザイナー、テキスタイルの販売促進活動、テキスタイル製造企業、テキスタイル研究家の資料、椅子張り家具工房の記録などがある（V&A-AAD Subject Guide: Textile ホームページ）。以上のことから判るように、AAD はスタイル・生産（材料と技術）・販売・消費という装飾芸術品のデザイン活動と産業全体に関する詳細な記録を集め・収蔵している。そしてこれを学生・研究者に一般公開している。これこそが、V&A Museum における装飾芸術とデザインに関する芸術文化政策の1つの重要な点である。

(2) **ビアトリックス・ポッター・コレクション** 『ピーター・ラビット物語』の作者であるビアトリックス・ポッターに関するアーカイブスは1973年に受領されたリンダー・コレクションからの寄贈品が中心である。その内容は書簡、素描、水彩画、写真、思い出の品々である（V&A-Archives ホームページ）。

(3) **V&A アーカイヴ** V&A アーカイヴ部署には、V&A Museum の歴史とその与えた影響を研究するための豊富な資料が収蔵されている。まず何百万もの収蔵品の収蔵過程や由来についての詳細な記録がある。また主要な寄贈者、収集家、貸主に関する情報もある。そして収集方針と発展過程の記録もある。またサウス・ケンジントン地区にあるV&A Museum 本館の建築史資料なども保存している。更に各部門・部署の記録もある。そして今は現存していない「巡回展部門」の記録などもここにある。但し関係法令により、これらのうちの多くは収蔵から30年を経過するまで公開されないことがある（V&A-Archives ホームページ）。

III おわりに

V&A Museum の収蔵品は、建築図面、家具・木工、繊維、ファッション、彫像、陶磁器、ガラス器、金属細工、銀細工、宝飾品、英国の水彩画と素描、パステル画、細密肖像画、写真、商業グラフィックス、ポスター、芸術的書籍、芸術関連図書、子供関連、演劇関係、関連証拠資料など多岐に渡っている。1909年以降2001年までヨーロッパの収蔵品は使用材料によって7つに分類されていた。さらに1970年にアジア2部門が設立された。これらが2001年暮れにアジア部門1つとヨーロッパ部門3つに統合された。ヨーロッパの収蔵品は、2次元的なものはすべて文書画像部門に分類され、3次元的なものは

インテリアとファッションに関係するものと、それ以外のものに分類された。この収蔵品部門の統合は、「観衆が収蔵品の文化背景を探ることを可能にする」ために、ある特定分野の収蔵品の時系列的展示だけではなく、家具、繊維、ファッション、陶磁器、ガラス器、金属細工、図画、図案、版画、書籍、その他のアーカイヴスを渾然一体として展示して当時の文化背景を表出するという常設展示ギャラリーの考え方に呼応するものである。

V&A Museum の収蔵品収集計画における特徴の第一は、国立芸術デザイン博物館として輸出の危機にある重要な国家的遺産を収集して公の収蔵品とする役目を担っていることである。第二は歴史的な物の収蔵に当たっては証拠資料が揃っていることが強調されている点である。第三は20世紀と21世紀のコンテンポラリーな物の収集が強調されている点である。第四に新たな物に対する調査研究は、伝統的方法と電子メディアを使用した方法によって情報を提供しなければならないという点である。第五は館内の常設展示、図書館、研究室、参考資料施設、短期・長期貸出、外部展覧会を通して、英国内および国際的に、文字通りすべての収蔵品を一般公衆が享受できるようにすることに献身しているという点である。第六はV&A Museum は国際博物館会議と英国博物館協会の規約を遵守している点である。最後に、収蔵品の収集の方法は、寄贈、遺贈、納税代替、交換、制作依頼など色々あるが、最も多い購入のために資金調達機能を強化している点である。

V&A Museum においては、過去150年間一貫してコンテンポラリーなものを収集してきた。一般公衆の趣味の変化やデザイン実践の変化は、博物館の収集方針に大きな影響力を及ぼしてきた。但し過去には偏狭な鑑識眼を最優先する時代もあった。また収蔵当時は辛らつに批判されたが、長い年月の後に世界的に評価が定まりその収集活動の正しさが認められた事例もあった。現在のV&A Museum は、「同時代のデザイナーを触発するため、同時代の作品を収集・収蔵する」という設立当初の立場に完全に復帰している。

またデザインとは、製品のコンセプト設計から実際に消費されるまでの全過程を計画することであるので、その資料は芸術家やデザイナーの個人的な記録、ビジネスの記録、生産・マーケティング・販売促進活動・芸術デザイン研究などに関わった組織の記録など多岐にわたっている。具体的には、注文書、往復書簡、帳簿、日記、写真、販売促進物などが収蔵されている。このようなアプローチでは限られた作品しか収蔵できないが、選択されたものに関しては、詳細な背景資料を提供できるようにしている。

V&A Museum の収蔵品部門の変遷、収蔵品の種類、収蔵品の概要と収集計画の方針には以上のような装飾芸術とデザインに対する英国の芸術文化政策の特質があることが判る。

注

- 1 建築関係の収蔵品は彫像部門に入れられていた。
- 2 東アジア部門と極東部門は 1970 年に設立された。東アジア部門は後にインド・東南アジア部門と呼ばれた。
- 3 将来計画の詳細は第三部で論じる。
- 4 『収蔵品収集計画書』の直近のものは 2004 年 8 月に発行された。
- 5 ベスナル・グリーン子供博物館と演劇博物館の収蔵品の概要と収集計画については割愛する。
- 6 ロンドン東インド会社は 1600 年 12 月エリザベス 1 世の東インド貿易の特許状賦与により設立された。1698 年には競争会社イギリス東インド会社が設立された。そして 1709 年に両者は合併し、合同東インド会社と称した。そして 1858 年に解散した。
- 7 1858 年に王室所有となった東インド会社の旧収蔵品は 1874 年にサウス・ケンジントン博物館に移管された（エリザベス・エスティヴ＝コール 1992 : p.7）。
- 8 時計は家具部署と金属細工部署とで共同管理されている。家具部署は主に木工部分に着目する。機械部分のデザインは大英博物館の範疇である。
- 9 18 世紀と 19 世紀が英国家具産業の黄金時代であった。
- 10 雑誌『カントリー・ライフ』は 1935 年まで発行された。
- 11 ベスナル・グリーン博物館は 1896 年当時、V&A Museum の前身であるサウス・ケンジントン博物館の支館であった。現在も V&A Museum の構成館の 1 つであり、ベスナル・グリーン子供博物館として存在している。そして大きな改装工事のために 2005 年 10 月 31 日から約 1 年間休館している。
- 12 巡回部門は 1977 年に解散した。
- 13 1909 年に設立された収蔵品部門の 1 つ「木工部門」は、1966 年にピーター・ソーントンのもと「家具・木工部門」と改称された。1984 年から 1989 年の間、サイモン・ジェルヴィスのもと「家具・インテリアデザイン部門」と呼ばれた。クリストファ・ウィルクのもと 1990 年から 2001 年暮れまでは再び「家具・木工部門」という名称に戻った。そして 2001 年暮れに「家具・繊維・ファッション部門」として統合された。部門長はクリストファ・ウィルクが引き継いだ。
- 14 古典様式はギリシャ時代およびローマ時代の様式を指す。
- 15 例えば大英博物館に収蔵されているギリシャ時代のアテネ、パルテノン神殿のフリーズ部分の彫像など。
- 16 例えば、木版、銅版の直刻法のエングレーヴィング、銅版の腐食法のエッチング、石版画のリソグラフ、孔版のシルクスクリーン、合羽版のステンシルなどのほか、近代的な印刷工業技法によって制作されたものなど。

引用・参考文献

- ・エリザベス・エスティヴ＝コール：1992 『ヴィクトリア & アルバート美術館—SCALA / MISUZU 美術館シリーズ 8』、田辺徹（訳）、東京：みすず書房。
- ・リュック・ブノワ：2002 『博物館学への招待』、水嶋英治（訳）、東京：白水社。
- ・BURTON, Anthony: 1999 *Vision and Accident: The Story of the Victoria and Albert Museum*. London: V&A Publications.
- ・V&A Collections: 2003 *Collections Management Policy*. London: Victoria and Albert Museum.
- ・V&A Collections: 2004 *V&A Collecting Plan Including Acquisition & Disposal Policy*. London: Victoria and Albert Museum.
- ・V&A Plan: 2004 *V&A Plan 2004/05*. London: Victoria and Albert Museum.
- ・WILK, Christopher: 1996 “Furniture collecting at the Victoria and Albert Museum: a summary history,” *Western Furniture: 1350 to the Present Day*. Christopher Wilk (eds.), London: Philip Wilson Publishers Ltd., pp.9-24.